



## RI 第 2 6 1 0 地区

### 井波庄川ロータリークラブ会報

2010-2011 年度 No. 2 1

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 FAX 0763-53-1334、

2010-2011 年度 RI テーマ



「地球を育み、  
大陸をつなぐ」

(レイ・クリンギンスマス会長)

[INASHORC@athena.ocn.ne.jp](mailto:INASHORC@athena.ocn.ne.jp)

2010-2011 年度 会長 山本武夫 、幹事 助田幸雄

~~~~~

## 例 会 記 錄

### 第 1 5 5 2 回 例 会

平成 22 年 12 月 15 日(水)

井波文化センターエイトホール

1. 点鐘 会長
2. ソング 四つのテスト
3. 卓話ゲスト：道吉勝重氏（射水 RC）
4. 会長の時間：今朝起きたら山が真っ白でした。長女が生まれた年は、11 月 14 日朝富山の病院に向かう時、八乙女山が今日と同じで真っ白でした。やがて 1 か月ほど違います。猛暑の年の冬は寒いということですが、今まで暖かかったですが、これから寒くなるのでしょうか。先日富山市内を夜歩いたら、富山城のライトアップと池のほとりのイルミネーションがきれいでした。

さて、昨日 12 月 14 日といえば、忠臣蔵、赤穂浪士の討ち入りの日です。正確にいえば日が開けた今日、15 日が吉良上野介を討ちとった大願成就した日です。忠臣蔵といえば、昔からひいきの侍がそれぞれいますが、私の場合は、昔 NHK の大河ドラマで長谷川一夫が大石内蔵助をした番組で、萱野三平が好きでした。「忠ならむと欲すれば孝ならん、孝ならむと欲すれば忠ならん」、討ち入りに反対する親へと、仕える殿様への板挟みで最後は切腹して果てます。高校くらいにも、大人になるとこんなかっこいいことで悩めるのかとあこがれたものです。

また、本日の読売新聞に「武士の家計簿」と「最後

の忠臣蔵」がこの 12 月公開の映画作品に上がっていました。後者には、瀬尾孫左衛門と寺坂吉右衛門を中心に出でますが、一人は、討ち入り前に、もう一人は討ち入り後に仲間を外れて、この出来事を後世に伝えようとしています。どんないい出来事も、記録をしなければ、後世にうまく伝わりません。そういう意味で、先日の木村英典会員の新聞記事のスクラップや今までの記録が、当クラブには本当に貴重です。こうすることは大事に守り続けていきたいと思います。

いなみ国際木彫刻キャンプの協力の依頼が来ました。出来ることでお手伝いが出来ればと思います。後ほど、理事会でお話しさせて頂き、どのような協力が出来るか話し合いたいと思います。

5. 幹事報告：米山関係のお知らせがプリント 2 枚あります。①11 月の寄付金傾向、②ハイライトよねやま 130：寄付金速報が単月では過去 10 年で最低だそうです。
6. 委員会報告：①親睦活動委員会（岩崎委員長）：今度のクリスマス家族例会は水曜日ではなく、翌日の木曜祝日の日です。お間違えなく。夕方 6 時から、会場は三楽園です。  
②その他（三谷財団副委員長）：先日から井波社会福利センターに行く機会がありますが、玄関にペットボトルの蓋を入れる容器が準備してあります。蓋 500 個（確固たる数字ではありませんが）で、ポリオのワクチン 1 本が買える値段になるそうです。御参考までに。

③国際奉仕委員会（斎藤委員長）：三谷会員からいい話を聞いていただきました。昨年、金沢香林坊 RC にメイキヤップに行ったときに、ペットボトルの蓋回収箱が用意してありました。国際奉仕委員会でも、書き損じはがきだけでなく、これについても検討したいと思います。

#### 7. ニコニコBOX(本日 4名 7000 円)

**坂井会員：**雪が降りクリスマスの季節がやってきました。23日は、お待ちしております。道吉さん、ようこそ、いらっしゃいました。

**岩崎会員：**先日12月議会で初めて一般質問をしました。大変緊張しました。

**山本会長：**道吉様、ようこそ、卓話よろしくおねがします。助田議員には、12月議会で「歯の健康」の一般質問をされました。南砺市民が健康になるようこれからもよろしく。

**助田幹事：**道吉先生、ようこそいらっしゃいました。本日は卓話をよろしくお願いします。

#### 8. 出席委員会報告：19名中 13名出席（調整後 72.22%）

射水と高岡に、大きすぎるアトリエを2か所持つて活躍中です。

**道吉氏：**5年前に寄せてもらって以来、2度目の訪問です。横山豊介先生から、電話があつて一発で了解しました。古いものが大好きで、井波は古いものが生きているので大好きです。旅先も、インド、中国、フランス、スペインなどが多く、歴史の新しいアメリカへは行っていません。

本日は、原稿を持ってきましたが、好きなように話をさせて頂きます。脱線しないようにしても無理なのでよろしくお願いします。【山本註：この後、道重先生の原稿を記載します。そのあとで、卓話に抄録を記載した方が理解しやすいので…】

#### 『院展の夜明け』 射水 RC 道吉勝重

日本美術院の創立は、明治31(1898)年に遡り、平成10年を持って100周年を迎える。

院の構成員(前期院展では正員、再興院展では同人)は、無類の結束力を持っていたことである。創立当初からの岡倉天心を親とした家族のようなつながり、再興以後も綿々と受け継がれ、少なくとも大正期まではたとえ横山大観であっても先生と呼ばない同志的な雰囲気を持っていた。

親睦を深める遠足や旅行、講師を招いての研究会も盛んであったが、同人が亡くなると遺作展を開いて個人を顕彰し(功績等を表彰する)、またその遺族に対しては経済的援助をすることもしばしばであった。

そのような強い結びつきは、当然ながら、創作面でも發揮される。お互いに影響を受けあい、時には共通の目的を持って研究し、時には仲間の先行作品に刺激されて自分の方向を見出しながら制作を行った結果、自ずと表現手段や様式的な共通性をもって作品に顕われてくる。

明治の美術行政、美術教育の基礎をつくり、日本の美術院を創立することに岡倉天心(本名：覚三)が尽力したが、それは、天心が2カ月かけた東大文学部の卒業論文「国家論」を夫婦喧嘩の腹いせに焼き払ったため、新たに「美術論」を書き上げたことがきっかけとなつた。

わずか、2週間で書き上げられたのは東大の哲学教師アメリカのフェノロサのお陰といわれている。当時まだ学生だった天心を通訳として使い、また、助手として美術資料収集させていた。

卒業後の天心は、フェノロサと行動をともにして、明治



#### 卓話「院展の夜明け」道吉勝重氏

**横山豊介会員：**道吉君は、大学の同級生です。日本画では、日展より上の院展(特待)で活躍されています。山と森が得意で、世界を旅行し、描き続けておられます。元教員で、

17年鑑画会創立に参加する。鑑画会は、古美術の展覧会や鑑定、美術史的研究に加え、西洋美術に肩を並べるような日本美術の確立も大きな目的の一つとしていた。それに、まず新しい日本画の創造が必要とされた。フェノロサの理論はこれより先に、明治15年「美術新説」として発表され、絵画の本質が妙想にあり、妙想とは「アイデア」であり、それを表現するためには「油絵」でなく「日本画」が適していると説いていた。

この時点では、洋画と文人画が意識的に排除され、鑑画会の実践の場として、日本美術院(院展)が大きく開華し大輪の花を咲かすのである。

今まで、院展で私が特に目引いた作家、菱田春草、下村觀山、平山郁夫の3先生について語ります。【以上、原稿】

岡倉天心は、明治22年東京美術学校の創立に参加しました。その1期生に、横山大観、菱田春草、木村武山、下村觀山がいました。後の院展を引っ張る人たちです。

私は、中学教員をしているときに、ある人から鑑定を頼まれました。素晴らしい掛け軸で黒一色の山水でしたが、軸には春草、箱に觀山と書いてあるので、本物でしょうか、ということでした。これには訳があります。春草は37歳で亡くなり、友人の觀山が面倒を見たのです。春草の絵で、仕上がって箱のないものに、觀山が署名して証明したのです。

春草と觀山は、若いころ新宿で、軸を一人25本、1本25銭で売ろうとしました。しかし1本も売れませんでした。ところが、アメリカのロサンゼルスで個展をしたら、全部売れました。2人は、その売り上げを院展の50人の仲間全員に分けたそうです。

岡倉天心は、インドやエジプトで買い取ったものを、恩師フェノロサの国、アメリカのボストン美術館に寄付したそうです。歴史のない国に贈ったのです。

平福百穂(ひらふくひやくすい:秋田出身)は、友人に絵をあげたが、その友人が請われて他の人に売って、その買った人が見えるところに飾ってあったのを見て、びっくりしたそうです。その飾っていた人に訳を聞いて、その人から、友人から買った金額より高く買い戻して、今度はその友人に、再び持つて行ったそうです。そして友人に、「この絵は、誰にあげたのでもない、貴方にあげたものですか

ら、大事に持っていてほしい。」と。

平山郁夫先生は、昔、叔父さんが東京芸大にいた所為で、私を美術学校に誘われました。昔は親が子供の行き先を決めた時代でした。すぐ上の兄は、高岡工芸を出て、金属工芸をしていましたから、親は私を漆工芸でもさせようと思ったようでした。とにかく、あんなこんなで、こうして私は金沢美大に入ることになりました。本日は時間がこれでなくなりました。続きはまた、いずれということで。本日は御清聴有難うございました。

